

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：兵庫日本語ボランティアネットワーク

1. 事業の概要

事業名称	日本語学習ボランティアの新しい能力を育てるためのプログラム
事業の目的	兵庫県下には90余りの日本語教室があり、それぞれの日本語教室は地域の特性や学習者のニーズに合わせた場を提供する努力をしている。以前から外国人が多く住む地域があれば、近年急激に外国人が増えた地域もある。また、そこに通う学習者もさまざまであり、日本語学習だけを希望する学習者もいれば、生活支援を必要とする学習者や話し相手を求めて日本語教室に通う学習者もいる。 このような多様な状況に対応するためには、もはや日本語ボランティアは日本語だけを教えているわけにはいかず、学習者のニーズに応えるべくさまざまな活動に関わることになる。一人一人のボランティアが自分の役割を理解し、周りの環境(人、物)を活用しながら教室の活動に取り組むことができれば、日本語教室の活動はうまく回っていくのではないだろうか。そのような行動ができるボランティアとは、自分で考えて主体的に行動できる能力を備えている人だといえる。日本語教室の変遷とともに、日本語ボランティアに望まれる能力も変化している。 これは、日本語教室だけの問題ではなく、近年、グローバル競争の激化や、日本国内での急速な人口の減少、高齢化の進行などに伴い、文部科学省(「生きる力」)、内閣府(「人間力」)、厚生労働省(「就職基礎能力」)などが、それぞれこれまでとは異なる人材像を出している田中(2015)。田中(2015)では、それらの人材像の共通点として、「思考力」、「問題解決力」、「コミュニケーション力」、「主体性」、「協調性」などが含まれることだと述べている。 兵庫日本語ボランティアネットワーク(以下、HNVN)ではこれまで、先進的取り組みとして日本語学習者の自律を育てる学習法である自己主導型学習を取り入れた日本語教室を開催してきた。また、それと同時に、日本語ボランティアの自律を育てるために、自分で考える日本語ボランティアを育成するための養成講座も行ってきた。学習者と日本語ボランティアの自律を育てるということは、「思考力」、「問題解決力」、「主体性」を育てることである。しかし、学習者自身、ボランティア自身が、それらの能力を向上させるためには、自分の力だけではなく周りの人の助けを借りなければいけないということを自覚し、周りとうまく協調するためのコミュニケーション能力も必要だと知らなければいけない。 本事業では、これまでHNVNが行ってきた事業の発展的事業として、「日本語ボランティアの2つの能力—自分で問題を解決し考え続ける能力と、クラス形式に対応できる日本語学習支援能力—を育てる養成講座」と、「学習者の自律を育てる日本語教室」を行う。 中間支援団体であるHNVNでは、直接教室を運営するよりも、教室間を結び、個々の教室の質を高める機会を提供することが自分たちの役目であると考えている。日本語教室に通う学習者のニーズに対応でき、その教室のボランティアが無理なく活動でき、日本語教室に存在する人たち—学習者・ボランティア・コーディネーター—が仲良く協力できる教室こそが、質の高い教室である。そのような教室を目指して、ボランティアには“新しい能力”を獲得してほしいと考え、本プログラムを提供する。 本プログラムにおける新しい能力とは、自分で問題を解決し考え続ける能力と、クラス形式に対応できる日本語学習支援能力である。本事業は、その“新しい能力”を身につけるための教材作成、養成講座および実習としての教室開催を行うことにより、教室の質を高めること、ひいては間接的に日本語学習者を支援することを目的とする。 【参考文献】 田中義隆(2015)『21世紀型スキルと諸外国の教育実践 求められる新しい能力』明石書店
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	兵庫県には約9万7千人の外国人が居住しており、そのうちの4割が新渡来者である。彼らの多くが、日本で生活するために、居住地域や勤務地域での日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約90箇所の日本語教室がある。 それらの日本語教室は10年～20年ほど続いている教室も比較的多く、開室当初とは異なる問題を抱えている。開室した当時は、ボランティアの日本語指導に関する能力の向上を第一に考える傾向があったが、それに加え、最近では、教室に関わる人たちが、どのような協力体制で教室運営に関われば教室を継続できるのかという、教室の継続に関する問題点をあげる教室も増えてきている。 日本語指導に関する問題としては、次のようなことが挙げられる。長年教室を続けたことによりボランティアの日本語支援能力は高くなり、新規のボランティアに対しても、先輩ボランティアとして日本語支援の方法を伝授できるボランティアも育ててきた。しかし、学習者の中には、他の学習者ともつながりを持ちたいというニーズが増えてきている。 ボランティアたちは、ボランティア不足の解消や学習者のニーズ要望に応えようとクラス形式の支援に挑戦する教室もあるのだが、クラス形式の支援は1:1とは異なるスキルを要求されるため、うまくクラス活動を行なえず、学習者から不満が出るケースもある。 一方、教室運営に関わる問題では、自分が担当する学習者との日本語支援活動以外では積極的ではないボランティアが多くなり、その結果、少数のボランティアだけで教室運営やイベントなどを行わなければいけないという事態が起こっている。教室運営などに携わるボランティアは、比較的古くからいるボランティアが多く、彼ら的高齢化も深刻な問題となっている。 このような問題点を解決するためには、各ボランティアが、自分は日本語教室をどのような場と捉えているのか、そして自分はその場でどんな力を発揮すればいいのか、ということについて考えていくことが大切であろう。

事業内容の概要	本事業では、ボランティアの新しい能力—自分で問題を解決し考え続ける能力と、クラス形式に対応できる日本語学習支援能力—育てるべく、以下のプログラムを企画する。 養成講座では、まず、日本語ボランティアが目目の問題を自分で解決できるようになることを目標に、思考、発表、話し合いを中心に構成する。またボランティアの多くは1:1形式で支援を行っているが、学習者からは他の学習者との交流を希望する声も多く、またボランティア不足もあり、今後は各日本語教室でもクラス形式の活動も取り入れる必要があると考えられる。クラス形式で複数の学習者を取りまとめるには、1:1形式とは異なるスキルが必要になる。それを養成講座で学び、本事業②の日本語教室とリンクさせることにより、実習行う。 ① 人材育成:日本語ボランティア養成講座を、以下の(ア)と(イ)の2本立てで行う。 (ア) 問題解決の方法を学ぶ (イ) クラス形式の方法を学ぶ、 (ア)では自分で考えるボランティアを育て、(イ)ではボランティアに日本語学習支援の新しい方法としてクラス形式の方法を学んでもらう。そして、特に(イ)については、本事業の②日本語教室で実習を行い、その経験を各自の日本語教室に持ち帰ってもらい、学習者間のつながりに役立ててほしい。 ② 日本語教室:この教室では、HNVNが以前より取り組んできた自律学習の考え方を取り入れることにより、学習者の自律を育て、教室だけではなく教室以外の学習の機会を学習者に意識づけ、自分に合った学習リソースを知ることにより日本語学習をより効率的に進められるようになるよう支援する。 また、今回は特に、講師と補助者は、学習者の授業への参加を促すためのアクティブラーニングを意識した授業展開をする。さらに今回は新たに学習者による自己評価を取り入れることにより、15回の授業での自分の成長を学習者が意識できる仕掛けを作る。 ③ 教材作成:①の養成講座で使用する指南書の作成 本企画は、よりよいボランティアの育成に重きを置くため、学習者のための日本語教材の作成ではなく、日本語ボランティア養成講座で使用する指南書を作成する。その内容は、養成講座の2本立てである(ア)問題解決の方法を学ぶ、(イ)クラス形式の方法を学ぶ、に使えるものとする。(ア)については、ロジカルシンキングやマインドマップなどの思考ツールの紹介やそれらの活用方法、および、それらを使ってボランティア自身の問題を解決する方法を提示する。また、(イ)については、ファシリテーターとしての役割や、アクティブラーニングについて記す。 以上の3つのプログラムにより、自分で問題を解決し教室のために考え続けられるボランティアを養成することと、これまでマンツーマンで支援を行ってきたボランティアにとっての新しいスキルとしての、クラス形式の方法を得られると考える。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	島田 三津起	(公財)兵庫県国際交流協会
2	小野 知哉	(公財)神戸市国際協力交流センター
3	井口 洋	(公財)兵庫県国際交流協会
4	小林 真由美	(公財)神戸市国際協力交流センター
5	財部 仁子	(公財)兵庫県国際交流協会
6	村山 勇	兵庫日本語ボランティアネットワーク
7	高橋博子	兵庫日本語ボランティアネットワーク
8	尾形文	兵庫日本語ボランティアネットワーク
9		
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年8月30日 (火) 10:00～12:00	2時間	(公財)神戸市国際協力交流センター会議室	島田 三津起、小野 知哉、井口 洋、小林 真由美、村山 勇、高橋博子、尾形文	①文化庁委託事業の中間報告 ②今後の進め方についての意見交換
2	平成29年3月6日 (月) 10:00～12:30	2時間半	(公財)神戸市国際協力交流センター会議室	島田 三津起、小野 知哉、井口 洋、小林 真由美、財部 仁子、村山 勇、高橋博子、尾形文	①文化庁委託事業の結果報告 ②尾形文が今年度の文化庁コーディネーター研修で行なった課題への取り組みを発表した。それを踏まえて、今後兵庫日本語ボランティアネットワークが考えている地域日本語教育への実践を述べた。それに対し、兵庫県国際交流協会と神戸市国際協力交流協会より、今後の協力体制について、具体的な話し合いを進めることができた。

(2) 事業の実施体制

〈運営委員会〉

兵庫県と神戸市の国際交流関係の業務に携わる方々に運営委員になってもらい、本事業が今後、どのように県下の日本語教育に活かせるのかということを中心に意見交換する場を設けた。

〈養成講座〉

本養成講座では、それぞれのボランティアが自身の抱える問題を洗い出し、解決していく過程を学ぶためのものである。そのため、講師は一人にし、演習形式の講座にした。それに加え、講師とともに受講者を助ける補助者をおいた。

〈日本語教室〉

初級クラスと中級クラスの2クラスを開催した。それぞれのクラスに講師1名、補助者2名をおき、学習者の学習のサポートを行った。

〈教材作成〉

本事業の養成講座で使用できるよう、8月末完成を目標に作成したが、作成者の諸事情により実際完成したのは9月末になった。教材は、まず3人の大学が執筆し、その後、3人のボランティアの意見を取り入れて、修正を数回繰り返したあと、養成講座で使用する教材を完成させた。教材は、30時間の養成講座で使用した後、養成講座の受講者たちからの意見をもとに、再度修正を行った。

〈会場〉

上記のいずれの事業も、基本的に神戸市国際協力交流センターの会議室で行う。

(3) 地域における連携体制

- ・(公財)兵庫県国際交流協会に事務局を置く、ひょうご日本語ネットの一員として毎月の会議に出席し、行政・民間の日本語教育機関・大学などと連携し、本事業を進めた。
- ・本事業の日本語教室と養成講座を神戸市で開催するにあたり、神戸市内の日本語教室に広報を依頼した。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:日本で楽しく暮らすための日本語教室 初級クラス】									
目的・目標	生活者として、すぐに役立つ実用的な日本語表現を習得する。								
対象	日本語初級者で、平日の午前中の学習を希望している人								
取組の内容	学習者が疑問に思う事、知りたいことを聞きだし、トピックとして取り上げ、それに関する表現を提示する。それを使って、自分の考えや感想を作文や口頭で発表する。また 母国の文化について発表し合い、感想を述べ、話題を広げる。								
実施期間	平成28年 9月 7日～平成28年 12月14日				曜日・時間帯		水曜日(10:00 ～ 12:00)		
開催回数	全 30時間 (1回 2時間 × 15回)				開催場所		神戸国際協力交流センター 会議室		
参加者	総数 9人 (日本語学習者 7人、指導者・支援者 2人など)				使用した教材・リソース		「生活日本語テキストなでしこジャパニーズ」 「できる?できた!!くらしのにほんご」		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1								1
	台湾(2人)、ルワンダ(1人)、インド(1)、ロシア(1)、日本(2)								
カリキュラム案活用	05災害に備え対応する、08物品購入、サービスを利用する、34住民としてのマナー								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成28年9月7日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	3	自己紹介	ひらがなの確認、数字、お金、曜日 学習用語(書いて、読んで、消して)		村山勇	櫻井久子
2	平成28年9月14日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	3	自己紹介	私の好きな物、事、趣味 私の家族(～と住んでいます) 私が知りたいこと		村山勇	櫻井久子
3	平成28年9月21日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	自己紹介	指で数を数える方法の違い、昨日 ～ました。今日～ます。明日～たい 各国の墓参り、体の部分、痛い、かゆい		村山勇	櫻井久子
4	平成28年9月28日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	日本の童謡 日本の会社	「さっちゃん」、「ぞうさん」の歌詞 会社の役職名、「ほうれんそう」 通勤、定期券、時間給、残業、会議		村山勇	櫻井久子
5	平成28年10月4日 (火) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	レストラン、メニュー	食事に誘う、和食、洋食、中華、飲み 物、デザート、割り勘、「豚肉以外は 食べます。」		村山勇	なし
6	平成28年10月12日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	私の生活の紹介	私の一日、、私の家族 ～時に起きます、～を食べます、 ～へ行きます		村山勇	櫻井久子
7	平成28年10月19日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	私の生活の紹介	私の一週間、～時に出来ます、～に乗り ます、～へ行きます、～を買います		村山勇	櫻井久子
8	平成28年10月26日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	私の母国の紹介	私の国の祭り ～で有名な日本人は～です。		村山勇	櫻井久子
9	平成28年11月2日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	私の母国の紹介	私の国の祝日 ～で人気がある人は～です。		村山勇	櫻井久子
10	平成28年11月9日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	私の母国と日本の 比較	四季、気候、災害、避難、緊急、け が、 病気、病院、保険		村山勇	櫻井久子
11	平成28年11月16日 (水) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	日本の各地へ旅行	都道府県、行きました、見ました、食 べ ました。きれいでした、おいしかったで す。		村山勇	櫻井久子
12	平成28年11月22日 (火) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	日本の各地へ旅行	電車、線路、料金、切符、乗り換え、 優先座席、スマホ、青春18切符		村山勇	櫻井久子
13	平成28年11月30日 (水) 10:00～12:00	2	防災未来 センター	5	地震の学習	非常持ち出し袋、避難所、マニュアル		村山勇	櫻井久子

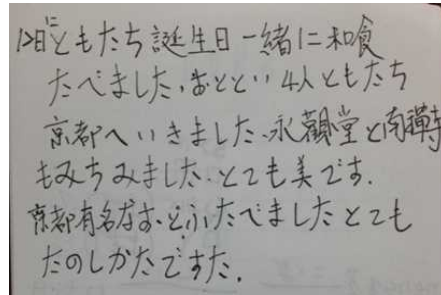
14	平成28年12月7日 (水) 10:00~12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	日本へ来てびっくり したこと	電動自転車、ゴミだしルール、 いじめ、うつ病、自殺	村山勇	櫻井久子
15	平成28年12月14日 (水) 10:00~12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	日本文化の体験	茶道、落語、用語、	村山勇	櫻井久子

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第14回 28年12月7日】トピック「日本へ来てびっくりしたこと」

五人の学習者が、この題でそれぞれ作文を書き、読んで発表した。また発表に対して質問もした。最初の頃と比べると、書くことに抵抗がなくなっている。拗音や促音の表記に問題はあるものの、十分に意味は通じる。先に指導者や補助者と表記の間違いを直したり、苦手な発音を練習したりしてから、発表した。みな大きな声で発表できた。また他の人の発表を聞き、自分もそう思ったと感想を述べたり、質問したりして、日本語でのやり取りが円滑になってきた。



○取組事例②

【第15回 28年12月14日】

- ・ 補助者櫻井久子による茶道の歴史の紹介、茶道のお点前の体験
パワーポイントで、茶道の歴史、お点前の仕方等の基礎知識を紹介した。またその際に必要な日本語表現を提示した。その後、五人の学習者がそれぞれ亭主と客になり、実際にお点前を体験した。ほとんどの学習者が、写真で見て知識としては知っていたが、実際に体験するのは初めてだったので、大変好評であった。
- ・ 指導者村山勇による落語の紹介
上方落語の「動物園」を演じた。キーワード30個を先に黒板に英語訳をつけて書き出しておいた。口調は上方の言葉ではなく、「簡単日本語」にした。例えば「おまはん」も「あんさん」も、全て「あなた」にしたり、会話を「ます形」にしたりした。これで日本語の初級者でも内容が大体理解できたようで、楽しんでいた。事後には、「これまでテレビで落語を見かけても、分からないものとして見ていなかったが、これからは見てみたい。」という感想があった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・ 事前にそのトピックに必要な用語、文型を用意して印刷して渡した。またその回で表現やエラーの例を次回に渡したので、エラーがへり、表現が定着してきた。
- ・ 受講者の中に日本に来て数年たつのに日本人と話すことがあまりない人が数人いた。このクラスで私たちと話して日本人と話すいい機会になったようだ。また受講者どおしでも、わからないところを、日本語で教えあったりしていた。クラスの共通言語が日本語という場面が回を追うごとに増えていった。
- ・ 受講者の発表の際には、関連する写真をパソコンから大画面に投影したので、内容理解が深まった。
- ・ 受講者のアンケートには、「楽しい内容であった。」、「日本語が使えるようになった。」、「友達ができた。」、「15回で終わらずにもっと続けて欲しい。」等の感想や要望があった。
- ・ 今まで耳で聞いて知っていた日本語を書いてみることで意味を再確認していた。
- ・ この後、近くの小学校でゲストティチャーとして母国の紹介をするという受講生がいた。社会進出に繋がる活動になった。
- ・ おおむね目標を達成したと思う。

(3) 今後の改善点について

- ・ 指導者二人で受講者が数人という回が多かった。少人数クラスは、一人がたくさん話せるというメリットはあるが、グループ学習という面では、もう少し人数がいる方が望ましい。KICCではマンツーマンで日本語支援をしている。ここではマンツーマンではできないことをクラス形式で提供したい。次回実施することがあれば、参加者がもっと増えるような広報を考えていく必要がある。。
- ・ 初級者と言っても能力差が大きい。ひらがなやカタカナが読めない人、書けない人には、重要な単語や表現に英訳を付けてサポートした。募集の段階で、「ひらがなカタカナの読める人」となっていたが、「ひらがなカタカナの読み書きができる人」とするのにも必要であるかも知れない。

日本語教育の実施【活動の名称:日本で楽しく暮らすための日本語教室 中級クラス】										
目的・目標		学習者の日本での生活に密接した日本語表現を習得する。 日本の生活にも関わる日本文化的マナーを習得する。								
対象		日本語能力が中級以上の学習者を対象とする。								
取組の内容		授業の初日に学習者に書いてもらった受講カードで彼ら(彼女ら)が学びたいことを基に活動内容は後行シラバスという形をとった。病気、防災、旅行、日本人へのメール作成、銀行などの送金方法、日本人の自宅への訪問の際のマナーなどを設定し、学習者がその場面で使う日本語を学習者に提示し、会話練習をさせる。学習者同士意見を交わしながら、その場面にあった日本語表現を体得してもらう。								
実施期間		平成28年 9月 8日～平成28年12月15日				曜日・時間帯		木曜日(10:00 ～12:00)		
開催回数		全 30 時間 (1回 2時間 × 15回)				開催場所		神戸国際協力交流センター 会議室		
参加者		総数 15 人 (日本語学習者 12人、指導者・支援者 3人など)				使用した教材・リソース		こうべを楽しもう、なでしこジャパニーズ、日本語宝船 にほんごこれだけ		
出身・国別内訳 (人数)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
		3	6		1					
		台湾(1)、パキスタン(1)、日本(3)								
カリキュラム案活用		活用及び指導方法に関するポイントを参考に、“対話による相互理解の促進”を頭に置き病気について授業をした。各国の医療について学習者から自分の国での驚くような治療の方法を語ってくれ、利用したカリキュラムの理解が深まった。								
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名		
1	平成28年9月8日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	12	自己紹介	「自己紹介」カードを記入させ、それに基づいて学習者に自己紹介させる。 「だれだっけ?」の紹介カードとイラストの人物を結び付けさせる。	高橋博子	大久保亜紀		
2	平成28年9月15日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	10	「私の宝物」作文の 発表	先週宿題だった「だれだっけ?」の答えを学習者で共有。 「私の宝物」の作文発表をさせる。	高橋博子	重信楓		
3	平成28年9月23日(金) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	8	「1日の生活」について	『日本語宝船』【にほんごこれだけ】を参考に、学習者の1日を発表させる。	高橋博子	大久保亜紀		
4	平成28年9月29日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	10	日本人に対する留意すべきマナー	日本人の家を訪問する際のマナーを教え、実践させる。 電話、メールする際のマナーを教授。	重信楓	高橋博子		
5	平成28年10月6日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	9	インターネット	ネットショッピングの仕方、コンビニ払いなどの仕方、ガス代や水道代の明細書の見方を教授。	大久保亜紀	高橋博子		
6	平成28年10月13日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	10	配達	国内輸送・国際輸送の方法を教授。 不在届の見方。	重信楓	高橋博子		
7	平成28年10月20日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	9	地震に関すること	「くらしの防災ガイド」「防災カード」を学習者に配布し、地震が起こった際の行動を確認。 ライフラインについて	高橋博子	大久保亜紀		

8	平成28年10月27日(木) 10:00～12:00	2	防災センター	6	地震	地震を体験し、防災の大切さを知る	高橋博子	重信楓
9	平成28年11月4日(金) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	3	旅行	学習者が行ったことある観光地また行きたい 観光地を日本語で紹介させる。 ホテルやレストランの予約の会話表現を教 授。	大久保亞紀	高橋博子
10	平成28年11月10日(木) 13:30～15:30	2	神戸市国際 交流協会 会議室	3	養成講座の実習	養成講座の実習 ビンゴゲーム	高橋博子 神夏礎晴香	なし
11	平成28年11月17日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	3	観光地に関する発 表	「おすすめの観光地」の発表準備・発 表	大久保亞紀	高橋博子
12	平成28年11月24日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	病気について	病気になった場合の日本語表現(症 状の言い方、痛さの度合いの言い方 など)を教授。	高橋博子	重信楓
13	平成28年12月1日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	病気に関すること	〇〇科 病院のシステム 問診票 く すり薬局	高橋博子	重信楓
14	平成28年12月8日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	4	養成講座の実習	養成講座の実習	重信楓	高橋博子
15	平成28年12月15日(木) 10:00～12:00	2	神戸市国際 交流協会 会議室	5	茶話会	学習者や講師がお菓子や飲み物を持 ち寄り、茶話会を行った。アンケートを とる	高橋博子	重信楓 大久保亞紀

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回 28年10月27日】

未来防災センターは1995年1月の阪神淡路大震災の経験と教訓を後世に継承し、国内外の災害による被害軽減に貢献する施設。特撮影とCDを駆使してその瞬間を再現し、地震のすさまじさと恐怖を体感できるセンターである。学習者たちはその時期日本に滞在していなかったが、地震のニュースは当時世界に発信され、今回それを体験した。日本にきて日本語教室などで地震に関して知識を得、避難訓練をすることの意味を体得したようだ。記念写真と液化化が起きた実験を見て、話を聞いている場面。



【第14回 28年12月8日】

兵庫日本語ボランティアネットワークが文化庁委託事業として5月からやっている「新しい能力を身に付けよう—問題解決の方法と、クラス形式への挑戦」の養成講座の受講者がこの中級クラスの学習者を相手に実習した。日本の文化についての授業である。初めて出会う講師であったので最初は少し緊張があったようだがだんだんにリラックスしていく様子が見て取れた。どうしても講師の説明が多くなる傾向にあったが講師の中には学習者からの発話をうまく引き出し、日本の習慣について疑問に思っていることを質問する学習者もいた。写真は実習の風景。



(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法(アンケートや評価等)も含めて具体的に記載すること。

学習者の要望を初日に書いてもらったので何をやるかについては迷いはなかった。自分の宝物をみんなに示して自分を知ってもらうための活動は自分を知ってもらうためにとっても積極的であった。今回は自己主導型学習の考え方を取り入れたので、どの授業も元気よくまじめな学びであったと思った。アンケートによるともう少し勉強したかった、日本語がちょっとうまくなったなど嬉しい感想があった。教科書で日本語を勉強してきた学習者が多かったせいか、ほとんどは書くことは得意であったが書くほどには話せないということが気になった。日本人とずっと話せばその能力が伸びるのではと感じた。

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

①学習者は日本人の友達が欲しい、日本人とずっと話したいというのが希望である。自由に1日学習者1人支援者1人で好きな所に出かけるプログラムを組んでみたい。日本語の力がつくかもしれない。②日本語が上達するためには上級レベルの学習者には1:1が良いのだが、初級レベルのうちはクラスで日本語を学んだほうが第三者の発話が聞ける、自分の国の言葉で友達に質問できる、教室が居場所にもなるなど良い点が多くあることを確信した。そういう意味でこのKICCにもクラス授業があることを私も学習者も望む。③授業中にスマホを使っても悪くはないが日本語を勉強する時のスマホのベストな使い方を学習者と一緒に考えてみたかった。次回やってみたい課題である。④見学をした日よりだんだんと参加者が減っていった。学習する気持ちを失ったのか、こちらになにか不備があったのか考えてみたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:新しい能力を身に付けよう—問題解決の方法と、クラス形式への挑戦—

目的・目標	本養成講座では、ボランティアの新しい2つの能力を育てることを目指す。 1つ目は、問題解決能力である。日本語教室の多様な学習者に対応するためには、日本語ボランティアは自分が担当する学習者に合った活動を提供しなければいけない。また、日本語教室は、日本語学習だけを行う場ではなく、ボランティア同士が協力し合って様々な行事に取り組まなければいけない。このような状況下では、日々、いろいろな問題が発生するのだが、それを解決するためには、まずはひとりひとりのボランティアが内省を働かせ、自分で考える態度を身に付ける必要がある。本養成講座では、クリティカルシンキングを利用して、自分で目の前の問題を解決できるボランティアの育成を目指す。 2つ目は、クラス形式に対応できる能力である。 地域日本語教室では、ボランティアと学習者が1対1で活動を行うことが多い。しかし、学習者の学習機会の拡大と、学習者同士のネットワークの構築という点から、複数の学習者とのボランティアで構成するクラス形式も有効だと考える。実際、ここ数年、学習者からのクラス形式への要望が増えている。 本養成講座では、受講者にアクティブラーニングとファシリテーターの考え方を学んでもらい、同事業で開催する日本語教室で実習を行ってもらい、クラス形式に挑戦してもらおう。対応できる力をつけてもらう。		
対象	1日でもいいので、日本語ボランティア経験のある人。		
取組の内容	養成講座の内容は次のAとB二本立てとする。 A:問題解決の方法を考えよう。 「これまでの自分の活動の振り返り⇒うまくできないことの洗い出し⇒要因を考える⇒解決策を考える」。このルーチンを講座で行うことにより、今後一人で問題解決ができるようになってもらう。講座は演習形式で行い、受講者の発表や受講者間の意見交換の場を設ける。講師はファシリテーターとして、受講者の思考や、意見交換を助ける。また、日本語教育に関する専門的な知識も提供する。 ①自分の活動を振り返る。 ②自分の活動での問題点を挙げる。 ③問題点を以下にカテゴリー化する A教室、B学習者、C自分以外のボランティア、D自分、Eその他 ④上のA～Eについて、受講者全員で考える。 ・教室とはなにか、どんな場所かetc. ・学習者とはだれか、なんのために教室にくるのか etc. ・ボランティアとはなにか、だれか、何が必要なのか etc ・私はだれか、なぜボランティアをしているのか、できることできないことetc ☆みんなでいろいろ調べながら考えていくうちに、調べ方や考え方を学ぶ。 ⑤自分が抱えている問題の要因はなにかを(工)から考える。 ⑥自分の解決案を発表し、他の人からの意見をもらい、修正する。 B:クラス形式への挑戦 一度に複数の学習者へ対応する際の活動方法を受講者に学んでもらう。 ⑦クラス形式の方法とはどのようなものを自分で考え、また他の受講者や講師、補助者の考えを聞きながら学んでいく。 ⑧クラス形式に挑戦(実習)・・・同事業での行う日本語教室で実習をする。 ⑨振り返り・・・同事業の教材作成委員が、文化庁の指導力評価の指導者レベルの項目を参考に作成した指導力評価票をもとに自己評価をしてもらう。		
実施期間	平成28年10月4日～平成28年12月6日	曜日・時間帯	火曜日(13:00～16:00)
開催回数	全30時間 (1回3時間 ×10回)	開催場所	(公財)神戸国際協力交流センター 会議室
参加者	総数 12人 (受講者 9人、指導者・支援者 3人など)	使用した教材・リソース	同事業で作成した『日本語ボランティアのためのパワーアップBOOK—問題解決能力とクラス形式の活動方法—』

出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(12人)								
カリキュラム案活用	活用なし								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名	
1	平成28年10月4日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	10	オリエンテーション	・養成講座についての説明 ・自己紹介をする	尾形文	神夏磯晴香	
2	平成28年10月11日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	7	自分を知ろう・仲間 を知ろう・話し方を知 ろう	・自分ができるとを知り、自分が出来ないこ とは周りの人の手を借りてもいいということを知 る。 ・学習者の学習の助けとなる話し方を知る。	尾形文	神夏磯晴香	
3	平成28年10月18日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	9	話し方を知ろう	・前回学んだ学習者の学習の助けとなる話し 方と踏まえて、学習者との活動を録音した データをもとに、自分の話し方を分析する。	尾形文	神夏磯晴香	
4	平成28年10月25日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	4	教室活動について 考える	・学習者の自律を育てることを念頭に教室活 動について学ぶ。 ・学習者がひとりではできるとひとりではでき ないことを分け、教室ではひとりではできないこ とを中心に活動する。それにより、学習者の自 律性が育ち、教室外での学習が拡大されてい くということ学ぶ。 ・上のことを、教材に記載した4人の学習者ご とにグループで考えてもらった。	尾形文	神夏磯晴香	
5	平成28年11月1日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	8	教室活動について 考える	・前回のグループワークでまとめたことを発表 した。	尾形文	神夏磯晴香	
6	平成28年11月8日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	8	ファシリテーターにな ろう	・学習者の自律を育てるための活動を引き 続き考えてもらった。ここでは、アクティブラ ーニングについて学び、グループ内でひとりづつ 実践してもらった。また、アクティブラーニン グをうまく行うためには、ボランティア主導でな く、ファシリテーターにならなければいけない ということも知ってもらった。	尾形文	神夏磯晴香	
7	平成28年11月15日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	7	自分の活動を改善し よう	・ここからの3回で、自分が抱えている問題に ついて掘り下げる練習をした。 ・まずは、クリティカルシンキングを知り、全 員でそれを使う練習をした。 ・次に、自分の問題を掘り下げて考える練習を 各自で行なった。	尾形文	神夏磯晴香	
8	平成28年11月22日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	8	自分の活動を改善し よう	・先週各自で行なった問題を掘り下げる練習 にこの日はグループで取り組み、グループの メンバー一人一人のクリティカルシンキングを 使った掘り下げ方を修正していった。 ・受講者は、グループで得た意見をもとに、家 で再度自分の問題を掘り下げた。	尾形文	神夏磯晴香	
9	平成28年11月29日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	7	自分の活動を改善し よう	・11月15日から考えてきた自分が抱える問 題について、解決に向けて自分がどのような 考え方をしたのか、そのプロセスを発表した。	尾形文	神夏磯晴香	
10	平成28年12月6日 (火) 13:00～16:00	3	(公財)神戸国際 協力交流セン ター 会議室	9	・場作りについて考えよう ・講座全体の振り返りとこ れからの自分	・アフオーダンスの考え方を学んでもらい、自 分が考える理想的な日本語教室を発表しても らった。 ・講座全体の振り返りととともに、今後どのよ うな日本語学習支援をしていくのかをひとり ひとり発表してもらった。	尾形文	神夏磯晴香	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回 平成28年11月22日】

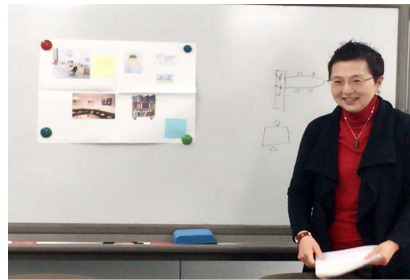
日本語教室の活動で自分が抱えている問題を取り上げ、クリティカルシンキングを使ってその問題を掘り下げる練習を行った。第7回で一般的な問題を例にしてクリティカルシンキングの練習をしたと、自分の問題を掘り下げる宿題を出した。この日は、自分が家で行なったクリティカルシンキングについて、グループのメンバーと意見を交わし、より深く思考することに挑戦してもらった。クリティカルシンキングでは、「なぜ」を繰り返しながら問題を掘り下げていくのだが、その際、どのような疑問文を作ればいいかがポイントとなる。自分が考えた疑問文が正しいか、また、他にどのような疑問文が考えられるかなどを話し合った。



○取組事例②

【第10回平成28年12月6日】

最終回のこの日は、「理想の日本語教室」というテーマで、自分が作りたい日本語教室の発表をもらった。資金が潤沢にあり、どのような教室も設立可能であるという前提で考えてもらった。この前の回でアフォーダンスについて学んでもらったので、たんに「こんな教室がほしいな」ということではなく、なぜそのような教室にしたいのかということも含めて発表をもらった。発表からは、台所、和室、ピアノなどが必要だと考える人が多いことがわかった。また、日本式のお風呂の入りを教えるために、露天風呂が必須だという発表もあった。



(2) 目標の達成状況・成果

本養成講座では、毎回の講座の後、受講者の「振り返りシート」を書いてもらった。そこから、受講者が下の①と②のような振り返りと学びを得たことが分かった。

【①受講者の学び】

- ・以前わからなかったことがわかった(振り返ることの大切さがわかった・ボランティアが学習者との活動で考えるべきことがわかった・ボランティアと学習者のあり方について学んだ・結論を容易に設定してはいけないことがわかった・養成講座で扱った考え方についてわかった・自分の問題がわかった・活動をする上でのヒントやアイデアを得た)
- ・自分の変化に気づいた(養成講座を受けて考え方が変わった・自分の考えが明確になった・話し方が進歩した)
- ・今後どうしたらいいかわかった(活動での課題が見つかった・これから考えていきたいことが見つかった)

【②養成講座の意義】

- ・グループで学ぶ意義(他の受講者に肯定してもらえた・他の受講者の思いや熱意を感じた・他の受講者について知ることができた・他の受講者と情報交換ができた・他の受講者と悩みを共有できた・グループでの話し合いはよかった)
- ・発表する意義(発表が出来てよかった・発表をがんばった・どのように話せばわかってもらえるかを考えた)
- ・新しい考えを学ぶ意義(養成講座で扱った考え方の重要性を感じた)

受講者たちは、さまざまな学びを得たが、下の③のようなことに直面したこともわかった。

【③受講者が直面した困難】

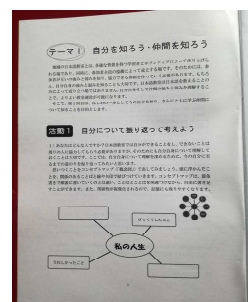
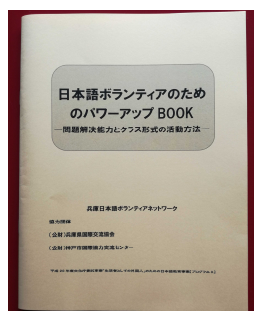
養成講座で扱った考え方は難しい・自分自身や自分の活動をさらすのはづらい・自分と向き合うのはづらい・振り返りを書くのはづらい

以上、「問題解決能力の育成を目指した日本語ボランティア養成講座—受講者の学びに着目して—」大河内瞳、尾形文、神夏磯晴香(2017)、日本語教育方法研究会、ポスター発表より

(3) 今後の改善点について

本養成講座は、講師が知識を伝達するのではなく、グループワークや発表をとおして、受講者が互いに学び合える機会を設定した。それにより、受講者からは多くの学びを得たという感想をもらったという点では、効果があったと考える。しかし、受講者が、自分の問題を他の受講者の前で発表する辛さや、自分に向き合う辛さを感じていたこともわかった。その点については、ファシリテーターとしての講師が今後、受講者が抱える講座に関する悩みをどのようにサポートすればいいかを考える必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：『日本語ボランティアのためのパワーアップBOOK—問題解決能力と、クラス形式の活動方法—』】			
目的・目標	本事業の養成講座の目標である「ボランティアの新しい能力—自分で問題を解決し考え続ける能力と、クラス形式に対応できる日本語学習支援能力—」を養成するための指南書を作成する。		
対象	・日本語学習を必要とする外国人に、日本語支援を行う日本語ボランティア ・地域日本語教室で教室のさまざまな行事に関わるボランティア		
教材の内容	以下に、本教材の目次を掲載する。 『日本語ボランティアのためのパワーアップBOOK—問題解決能力と、クラス形式の活動方法—』 【目次】 はじめに テーマ1 自分を知ろう・仲間を知ろう 活動1 自分について振り返って考えよう 活動2 仲間について知ろう テーマ2 教室活動について考えよう 活動3 話し方について知ろう 活動4 自分の話し方を振り返ってみよう 活動5 学習者が1人でできることとできないことを考えよう 活動6 アクティブラーニングに挑戦しよう テーマ3 自分の活動を改善しよう 活動7 自分の活動を振り返ろう テーマ4 場作りについて考えよう 活動8 理想的な日本語教室を考えてみよう テーマ5 これからの私を想像しよう 活動9 これまでを振り返り、これからについて考えてみよう		
実施期間	平成28年5月20日～平成29年3月23日	成果物のリンク先	兵庫日本語ボランティアネットワークのホームページ http://site.m3rd.jp/hyogo-nihongo-volunteer-network/
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回3時間 × 10回 =30時間分	教材の頁数	35ページ
カリキュラム案活用	活用なし		
教材の活用方法	・同事業の養成講座で、本教材をもとに活動を進めた。 ・平成29年3月18日JLEM(日本語教育方法研究会)にて、本教材作成についてのポスター発表を行った。		
今後の活用の予定	・本教材を兵庫日本語ボランティアネットワークのホームページに掲載し、使い方や養成講座についての問い合わせがあれば、随時応答する。		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

兵庫県下には90余りの日本語教室があり、それぞれの日本語教室は地域の特性や学習者のニーズに合わせた場を提供する努力をしている。以前から外国人が多く住む地域もあれば、近年急激に外国人が増えた地域もある。また、そこに通う学習者もさまざまであり、日本語学習だけを希望する学習者もいれば、生活支援を必要とする学習者や話し相手を求めて日本語教室に通う学習者もいる。

このような多様な状況に対応するためには、もはや日本語ボランティアは日本語だけを教えているわけにはいかず、学習者のニーズに応えるべくさまざまな活動に関わることになる。一人一人のボランティアが自分の役割を理解し、周りの環境(人、物)を活用しながら教室の活動に取り組むことができれば、日本語教室の活動はうまく回っていくのではないだろうか。そのような行動ができるボランティアとは、自分で考えて主体的に行動できる能力を備えている人だといえる。日本語教室の変遷とともに、日本語ボランティアに求められる能力も変化している。

これは、日本語教室だけの問題ではなく、近年、グローバル競争の激化や、日本国内での急速な人口の減少、高齢化の進行などに伴い、文部科学省(「生きる力」、内閣府(「人間力」、厚生労働省(「就職基礎能力」)などが、それぞれこれまでとは異なる人材像を出している田中(2015)。田中(2015)では、これらの人材像の共通点として、「思考力」、「問題解決力」、「コミュニケーション力」、「主体性」、「協調性」などが含まれることだと述べている。

兵庫日本語ボランティアネットワーク(以下、HNVN)ではこれまで、先進的取り組みとして日本語学習者の自律を育てる学習法である自己主導型学習を取り入れた日本語教室を開催してきた。また、それと同時に、日本語ボランティアの自律を育てるために、自分で考える日本語ボランティアを育成するための養成講座も行ってきた。学習者と日本語ボランティアの自律を育てるということは、「思考力」、「問題解決力」、「主体性」を育てることである。しかし、学習者自身、ボランティア自身が、それらの能力を向上させるためには、自分の力だけではなく周りの人の助けを借りなければいけないということを自覚し、周りとうまく協調するためのコミュニケーション能力も必要だと知らなければいけない。

本事業では、これまでHNVNが行ってきた事業の発展的事業として、「日本語ボランティアの2つの能力—自分で問題を解決し考え続ける能力と、クラス形式に対応できる日本語学習支援能力—を育てる養成講座」と、「学習者の自律を育てる日本語教室」を行う。

中間支援団体であるHNVNでは、直接教室を運営するよりも、教室間を結び、個々の教室の質を高める機会を提供することが自分たちの役目であると考えている。日本語教室に通う学習者のニーズに対応でき、その教室のボランティアが無理なく活動でき、日本語教室に存在する人たち—学習者・ボランティア・コーディネーター—が仲良く協力できる教室こそが、質の高い教室である。そのような教室を目指して、ボランティアには“新しい能力”を獲得してほしいと考え、本プログラムを提供する。

本プログラムにおける新しい能力とは、自分で問題を解決し考え続ける能力と、クラス形式に対応できる日本語学習支援能力である。

本事業は、その“新しい能力”を身につけるための教材作成、養成講座および実習としての教室開催を行うことにより、教室の質を高めること、ひいては間接的に日本語学習者を支援することを目的とする。

【参考文献】

田中義隆(2015)『21世紀型スキルと諸外国の教育実践 求められる新しい能力』明石書店

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

本事業は兵庫日本語ボランティアネットワークが2003年より取り組んできている「自律学習」を促進するという考え方のもと展開した。日本語教室については、過去にも学習者の自律を促進する日本語教室に取り組んだ指導者や補助者が、今回の教室活動に関わったため、学習者の自律を促進する活動を行うことができた。

養成講座については、ボランティアの自律を育てるという意味で、自分で問題を解決できるボランティアの育成を目指した。この内容の養成講座を実施するのは初めてだったため、講師も補助者もまだまだ足りないことが多かったと反省している。特に、クリティカルシンキングの方法を受講者に練習させる際、受講者によりそのような思考を得意とする人と、そうでない人の差があり、個別の対応が必要であることがわかった。また、今回の養成講座は、前10回を一人の講師が担当し演習形式で行なったのだが、それにより受講者と講師の関係が築けただけでなく、受講者間の関係も育ったと実感できた。

教材作成については、3人の大学の講師が主となり作成したことにより、理論が表面に出てしまい、ボランティアにとっては難しく感じる部分もあったようだ。ただ、一度暫定版を作成し、それを3人のボランティアに見てもらい、その意見をもとに大きく修正したことで、講座では難しいという意見が少なかった。今後は、教材を使用した人の意見を直接教材に記載するなどして、養成講座ではなくてもボランティアがひとりで使える教材を目指したい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

本事業では、標準的なカリキュラム案は、日本語教室でのみ使用した。初級クラスでは、指導者と補助者が考えていた活動にカリキュラム案を取り入れることにより、活動の準備に掛ける時間の短縮が見られた。また、中級クラスでは、指導方法の部分を参考にしたことにより、学習者の学習を促進するためにはどのような事につけて活動すればいいかがわかった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の事業では、2回の運営委員会において、出席団体がどのように連携をすれば地域日本語教育の役に立つかが話し合われた。運営委員会に出席した方々は、他の団体の事業でも顔を合わせる機会が多かったのだが、地域日本語教育に関して、今回のような具体的な話し合いがなされることは過去にはなかった。

具体的な話し合いがなされたきっかけとなったのは、本事業のコーディネーターである尾形文が今年度の文化庁コーディネーター研修に参加をし、そこから得たことを運営委員会で発表したことである。それにより、国流がしたいができないことで、当団体ができることがあることが判明し、今後はお互いが補い合っていくことが必要だということがわかったので、近い将来実施に向けての話し合いを持つところまで進んだ。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語教室・養成講座ともに、神戸市で開催したため、神戸市やその周辺の団体、教室にチラシをメールで送ったり、郵送したりして広報への協力を依頼した。また、直接日本語教育には関係のない施設(図書館、公民館など)へもチラシを置かせてもらった。それにより、教室に通っていない外国人や、ボランティア未経験者からの問い合わせもあった。

(6) 改善点, 今後の課題について

・日本語教室

本教室は、一クラスにつき全15回しか開催していないため、年間を通しての開催してほしいという声が学習者から出た。これについては、他の助成金と併せて開催することで、年間を通しての開催が見込めると考えている。

・養成講座

以前から、全30時間の講座はしんどいという声があったのだが、今回もそれが理由で応募しなかったボランティアが数人いた。一人でも多くのボランティアに学びの場を提供するために、開催総時間が少なめの養成講座を考えていく必要がある。

(7) その他参考資料

チラシ(日本語教室・養成講座)PDF